

## 平成29年度第1回岐阜県教員育成協議会の報告について

### 1 開催日時・場所

平成29年7月18日（火）10：00～11：30  
県総合教育センター 1棟3階第3研修室

### 2 委員から出された主なご意見

#### （1）研修の在り方について

- 教員は必要を感じれば自ら求めて研修に出かけている。教員が主体的に研修するよう、内容に魅力があり、かつ指導力が高まる研修にすべきである。
- 教員が主体的に学ぶ研修となるよう、聴講ばかりとせず、アクティブな参加体験型の研修に改善するとよい。
- メンター制によって若手教員と中堅教員チームを組んで研修を実施する事業を昨年度参観した。学校で教員が育つしくみがよく機能していると感じた。こうしたしくみが広がるとよい。

#### （2）教員の研修に対する課題について

- 講座を受けることだけが研修ではなく、学校での教育活動や会議の場も研修である。そのような研修に対する意識改革が必要である。
- 研修内容が教員の指導力の向上と子どもの成長につながらなければならない。
- 教員が主体的に研修できる研修後補充のような条件整備が必要である。
- 最近の教育実習生の様子から、実際の学校現場で起こる様々な生徒指導上の対応や、多様な児童生徒への対応に難しさを予想する。大学の養成段階や若手教員の段階の課題が大きい。
- 教員は大変忙しく厳しい環境に置かれていると認識している。そのような環境の中にいる教員の研修に対する意識を変えるのは時間がかかる。今の時代に合わせた研修に改善することも大切である。
- 教員育成指標には、採用時の姿が「スタートライン」として適切に位置付けられている。採用試験やその前の養成の段階において大学で身に付けさせる内容とも関連し大切にしたい内容である。
- 指標が自分で自分の力を診断するツールとして機能するとよい。